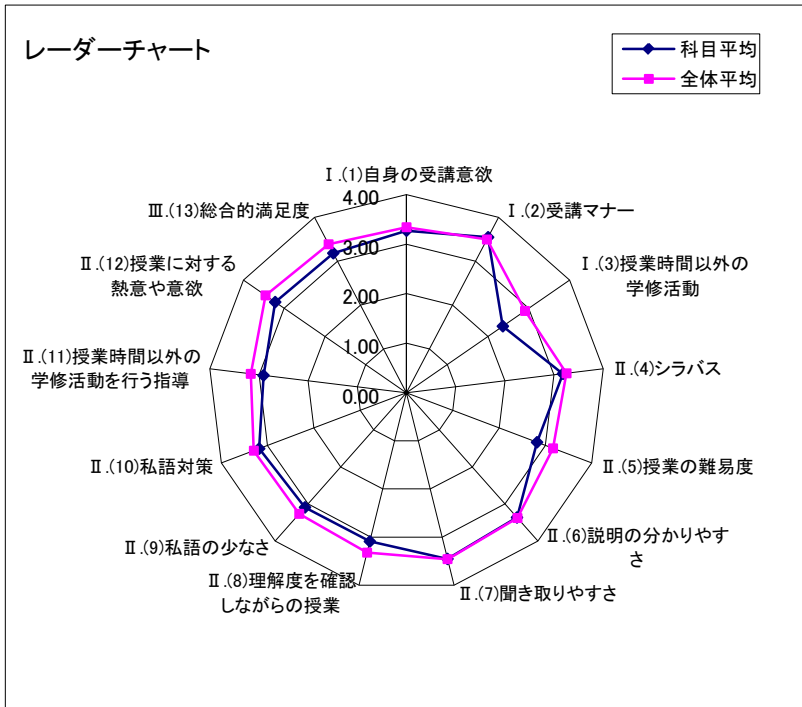
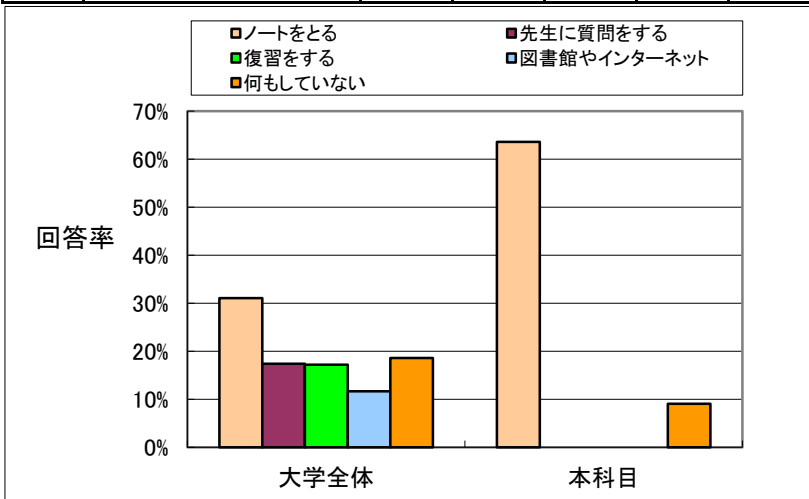


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	63.6	0.0	0.0	0.0	9.1



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.27	3.34
	I.(2)	3.55	3.49
	I.(3)	2.36	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.18	3.26
	II.(5)	2.82	3.16
	II.(6)	3.36	3.38
	II.(7)	3.45	3.46
	II.(8)	3.09	3.32
	II.(9)	3.09	3.27
	II.(10)	3.18	3.30
	II.(11)	2.91	3.17
	II.(12)	3.22	3.46
	総合評価	III.(13)	3.18

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.06	3.25
講義内容・方法 II.(4)~(12)	3.15	3.31
総合評価 III.(13)	3.18	3.39

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	3415
科目名	商法Ⅱ/商取引法
教員名	

①授業計画の達成度について

・授業の目標は、シラバスに掲載してあるとおりであり、各科目の基本的な事項を理解することができるように目標を設定している。基本的事項を理解し修得することの重要性は、授業時間において折りにふれ教えている。授業はシラバスに記載の順番で行っている。補足の必要な箇所でも時間を使った場合などにおいて、多少遅れたりすることもあるが、比較的重要度の低い部分をとばすなどして調整している。

・難易度が自分に合っているかとの問いに対して評価点3が最も多く、法律学関連科目の少ない学部の方に、難関科目と感ずる学生が少ないということであろう。理論の説明にさいして、言葉とともに図を多用しているため視覚的に理解を促進していると思う。この点については、授業がわかりやすいと解答する学生が非常に多いということにも現れている。到達目標は、基本的に条文の解釈適用の理解であるが、そのため事件の事実関係を説明するとき必ず図を用いるので、抵抗感なく授業に慣れ親しむことができる。適切であるということが出来る。

②授業の進め方について

・人数、教室の広さからマイクを使用する必要はなく、声ははっきりと発音し大きいので全然問題ないと思う。教室の後のほうで聞いていてもよく聞こえわかりやすい。

・学生の理解度は、小テストで確認する程度であり、授業中に教室を巡回しながら見て回ることほとんどしない。授業中の板書を写すことで足りるのではあるが、講義とともに回数を重ねていくうちに理論的な理解を促進するものといえる。

・学生が私語をする場合には、厳しく注意している。場合によっては、教室から退出するよう言うこともある。

・学生たちのほとんどが授業に満足してくれているようである。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

・毎回の自己評価を通じて、それをフィードバックしているので、授業は改善されているといえる。今後の授業改善計画としては、気の付く箇所があればその都度改善していきたい。通常、学生は単位を取得すれば再度受けることはないのであるから、教員がよい授業を毎年繰り返すことで足りるのではないかと考える。しかし近時、電子機器の普及が著しく、ビジュアル機器を使用した授業方法は検討の余地があると思う。